

EU の統合過程におけるグロービズムの波及：
グローバリズムが生み出すアンチ・グローバリズム

An Influence of Gaullism in the Unification Process of European
Union: A Significance of Anti-Globalism Produced by Globalism

目白大学教授 石井貫太郎
kantaroishii@yahoo.co.jp

1. はじめに

- (1) 現代のヨーロッパ諸国における政治経済的混乱
- (2) 自由・平等・公正・効率
- (3) 合理的期待形成

2. グローバリズムの進展と現行資本主義の限界

- (1) グローバリズムと国民経済
- (2) 財政主導と金融主導
- (3) クラウディングアウトとキャピタルゲイン
- (4) 市場経済と分権主義

3. グローバリズムの進展と現行民主主義の限界

- (1) グローバリズムとガバナビリティ
- (2) 市場の失敗と政策の失敗
- (3) 大衆民主主義とポピュリズム
- (4) 混合経済と集権主義

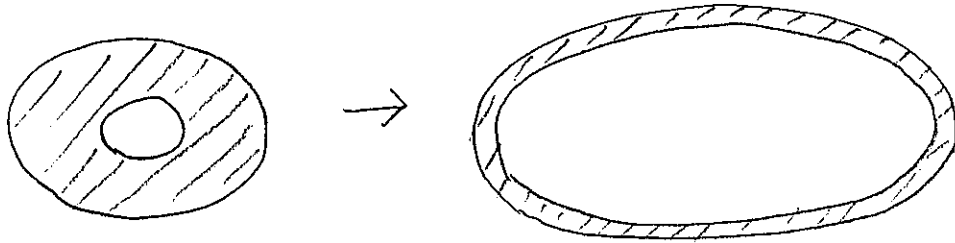
4. アンチ・グローバリズムによる反動とグロービズムの復権

- (1) 国民投票と直接民主制
- (2) ナショナリズムと主権国家間協調方式
- (3) グローバリズムが生み出すアンチ・グローバリズム

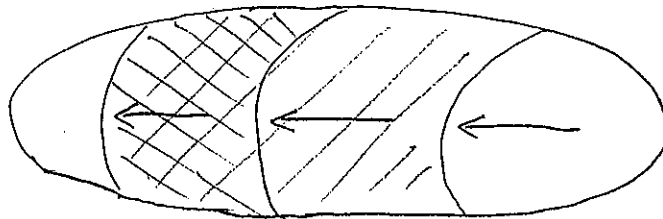
5. まとめ

- (1) 正義は保障されど成果は保障されず
- (2) 後発性利益による途上国の追い上げ
- (3) 資本主義と共産主義・民主主義と独裁・グローバリズムとナシ
ョナリズム

【図 1: グローバリズムと国民経済】



【図 2: グローバリズムとガバナビリティ】



【参考文献】

- 石井貫太郎『現代国際政治理論(増補改訂版)』(ミネルヴァ書房、2003年、初版1993年)
-----『リーダーシップの政治学: 政治家にふさわしい資質とはなにか?』(東信堂、2004年)
-----・齊藤毅憲(共編)『グローバル時代の企業と社会』(ミネルヴァ書房、2002年)
佐伯啓思『ケインズの予言』(PHP研究所、1999年)
-----『倫理としてのナショナリズム: グローバリズムの虚無を超えて』(NTT出版、2005年)
大芝亮・山内進(共編)『衝突と和解のヨーロッパ: ユーロ・グローバルリズムの挑戦』(ミネルヴァ書房、2007年)
エイブラム・L. サッチャー(大谷堅志郎訳)『燃え続けた20世紀(3): 東西冷戦から多極世界へ』(サイマル出版、1997年)
シャルル・ド・ゴール(朝日新聞外報部訳)『ドゴール・希望の回想』(朝日新聞、1971年)
スタンレー・ホフマン(天野恒雄訳)『フランス現代史(2): 政治の芸術家ドゴール』(白水社、1977年)

(本レジュメの複写・転載・転用はご遠慮ください)